

# 令和7年度 輪之内町立大藪小学校 自己評価書

学校の教育目標		よく考え 励まし合って やりぬく子			
経営の重点		自ら歩み出す力 対話力 笑顔をつくる力			
町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	12月までの成果	来年度以降の課題(●)と改善策(□)
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方(命の大切さ)についての考えを深める道徳教育の充実	77	B	○「生命の安全教育」として、プライベートゾーンの学習を行い、自分の体も仲間の体も大切にしようとする心をもつことができた。 ○道徳の授業やSOSの出し方教育などを通して、自分の命、家族や仲間の命、動物の命の大切さに気付くことができた。 ○あったか言葉キャンペーンやアサーティブな伝え方の学習、ひびきあい集会に向けてクラスで真剣に取り組むことができた。 ○毎日のかがやきみつけで、仲間同士で相手を思いやる心が高まり、互いの個性やよさを認め合える姿が増えた。	●「生命の安全教育」を充実させる必要がある。 ○命に関する出前講座(獣医師会 命の授業等)を取り入れ、命について考える機会を増やしていく。 □全校で、道徳の日(時間)を統一し、道徳教育の充実を努める。
【人権教育】 自他の違いを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	77	B	○人権DVD視聴や、人権にかかわる本の読み聞かせでは、SNSの危険性や、自分のよさについて考え、自他の違いを尊重できる学びをした。 ○心のアンケートによる聞き取りが丁寧になされた。 ○気になることがあれば些細なことでも職員同士で情報共有できる職員関係である。子ども同士のトラブルやいじめ等があったとき、迅速に対応できた。	●全校で言語環境を整える。 ●より良い人間関係を構築するための、さん付けやあたたかい言葉かけを、年間を通して指導する。 □相手の良さをもっと認めていくことで、トラブルを少なくしていく。日ごろから、アサーティブな伝え方や「かがやきみつけ」で仲間を大切にしていく。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	77	B	○教育相談担当が中心となり、スクールカウンセラーに話を聞いたりアドバイスを受けたりとすることができている。いろいろな見方や考え方を知り、児童理解を深めることは大切である。 ○生徒指導交流や毎月の振り返り、教職員研修で真剣な意見交流や自己評価ができた。 ○生徒指導事案があった時、報告・連絡のできる環境がある。 ○心のアンケートを活用して、一人一人の悩みや困り感を把握し、早期発見や未然防止に努めた。	●無記名アンケートを効率的に活用する。また、心のアンケートだけでなく、個別に受けた話にも耳を傾け、より一層、困り感がないように努める。 ●自分でSOSが出せること、困っていることや悩んでいることを言葉で表現できることは、低学年から身に付けていけるようにする。 □児童からの訴えがあった場合に対応のスピードを大切にす。担任が抱え込まないよう、絶えず管理職・生徒指導主事に報告・相談して職員全員で協力する。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよい問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思ふ心を育成する探究活動の充実	74	B	○「ふるさと発表会」に向けて、地域のことを意欲的に学ぶ姿勢があった。目的意識をもって学んだ。 ○地域を知る学習、地域の方から学ぶ機会が多くあり、輪之内について多く学ぶことができていた。 ○デイサービスセンター、水害に関わる場所へ出かけることを通じて、大藪地区について知ることができた。校内だけでは学べないことをたくさん知り、知見を深めることができた。	●総合的な学習の時間を年間の見直しをもって、児童が目的意識をもって進めるようにする。 □総合的な学習や社会科など、各学年で大切にしてきたふるさと学習を確実に引き継ぐ。 □総合的な学習の時間を、年間の見直しをもち計画的に進める。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を思ふとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	74	B	○「身に付けたい7つの反応」を意識して対話活動を位置付けた。 ○全校研究会や部研での学び合いを大切に指導力を高めることができた。 ○ペア交流、グループ交流を行うことで、難しい問題にも進んで取り組もうとする児童が増えた。また、対話をする中で相手の考えを知ることができた。また、グループのリーダーが最後にまとめて仲間の意見を話すことで、考えて話す力を高めた。	●「身に付けたい7つの反応」を意識して、どの教科でも、対話活動を位置付ける。 □学年に応じた朝活動のスキルアップタイムの対話活動例をつくる。授業中の対話の質を向上させる。 □スキルアップタイムの活動内容を明らかにして、充実をさせていき、今後も続けていく。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実)	74	B	○発達段階に応じてICTで写真や映像を見せ、視覚的にも理解しやすい授業を実施することができた。 ○総合的な学習の発表会に向けて一人一人がICT活用しながら、ペアで対話できる発表形式をとることで協働的な学びになった。 ○学習用アプリの活用を通して、個別最適な学びを行えた。共有ノートを活用することで、プレゼンテーションなどをグループで協力して作成することができた。 ○情報モラルに関する道徳と学活の授業を連携させ、ICT活用の授業を行うことができた。	●学習用アプリの活用を広げていく。学年や学級で差がないようにする。 ●情報モラル教育は低学年からきちんと指導することが大切である。情報モラルの意識をより高めることで、家庭でのICTの正しい活用を進めたい。 □児童会活動や特別支援学級での有効な活用方法を考える。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	69	B	○児童は、教科担任やALTと共に学びに向かう姿勢がある。 ○ALTと一緒に学べた。発達段階に応じた学びができた。 ○教師との対話や個別発表会などの活動が工夫された。 ○給食の時間などもALTが来てくださり、外国語に親しむことができた。外国の音楽のリズムを楽しみながら、発達段階に応じた学びができた。	●大きな声で発音することは大切だが、授業が騒がしくなりすぎないようにけいめをつけさせる。 □ゲームを通して外国語を覚える活動では、聞き取ったり発音したりする活動を設定し、ねらいを明確にして授業を行う。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付け 事前・事後指導の充実(キャリアパスポートの活用)	67	B	○出前授業や校外学習などもキャリア教育の場として意識することができた。 ○農園活動を楽しみ、収穫や食の喜びを味わうことができた。 ○キャリアパスポートを活用し、定期的に振り返ったり、目標を確かめたりしながら指導を進めることができた。 ○毎日の清掃活動では、反省会をグループで確実に行うようさせ、反省カードを教師が点検することを継続し、児童は反省を生かして次の掃除に取り組んだ。	●出前授業や校外学習などをキャリア教育の場として生かしていく。 ●学校全体の清掃活動をよりよくしていくには、各学年に合った反省会を行い、教師が見届ける。 □キャリアパスポートの活用の充実を図る。そして、学校生活に生かせるようにする。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	74	B	○QUの結果から、悩みを抱えやすい児童に目を向け、個別に指導することができた。 ○学級会で、取組に向かう姿勢づくりを行うことができた。また、成果・課題を話し合い、学級の高めてきた力を確認することができた。	●学級をよくする取組や、仲間を大切に取る取組を児童から企画、発信することができ学級経営を仕組む。 ●年間2回のQU検査の活用を図る。 ●QUの結果で気になる児童からじっくり話を聴いたり、自由に会話をしたりする時間や心のゆとりをもつ。 □年間を通して、QUの活用を継続的に取り組む。
【健康安全】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	77	B	○けがを減らす取組をいくつか行い、けがでの保健室のけがでの来室者が減少した。休み時間の外遊びの声掛け、手洗い、うがいの放送など、児童の実態を見てよく行われた。 ○朝活動の縄跳びや昼休みのダンスチャレンジによって、児童は、積極的に体力づくりができた。 ○命を守る訓練が位置付き、明確な目的により、児童の防災意識は高まっている。	●廊下を走る児童や、校内でボールをつく児童が見られるので、安全指導の充実を図る。 □各地での自然災害や火災・事件などが起きた時に放送などで全校に向けて防災の話をする。命を守る訓練の工夫、改善を進め、児童の防災意識をさらに高めていきたい。
【コミュニティ・スクール】 地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに進める学校づくり	78	B	○登下校の見守りや学校行事の運営など、地域の方の力は大変大きい。 ○11月のふれあい活動では、地域の方々の防災体験活動があり、地域と共に学校づくりを行った。ふれあい活動で地域の方に協力していただき、よい活動ができた。前日から準備をしていただくなど、地域の方々の協力を得て行われた。 ○ふれあい運動会など地域の人とのコミュニケーションが取れた。	●特定の職員の負担が大きいため、組織的な動きをつくる。 ●児童だけでなく、教職員も地域の方から学ぶことは多くある。地域の方と積極的に関わる。 □ふれあい活動については、準備などから、担任、保護者(有志)等、関わる「人」を広げていく。
【学校経営】 全教職員が協力しチーム学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	79	B	○すぐに相談ができて助言をいただける環境であり、心身ともに健康に過ごすことができた。風通しの良い職員室である。 ○家庭の事情や健康状態に合わせて、休暇を取りやすい環境がある。 ○「リフレッシュ年休」をとれる体制になった。	●学年部の連携を強めていきたい。 □学年部会を位置付ける。 □8の日「ぼっぼと帰る日」と、水曜日「すいすい水曜日」の早帰り、「リフレッシュ年休」を推進する。出勤簿の途中経過を配付し、自分の勤務時間の累計が把握できるようにする。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	77	B	○定期的に部研や全校研究会、研修を受けることは、自分を見つめ直す良い機会となった。 ○プチ研修や定期的なハラスメント研修がよかった。 ○生徒指導事案、若手教員を対象とした研修を行うことができた。 ○朝活動のスキルアップタイムを用いたり帰りの会の「ポジ練(ポジティブな言葉をつかう練習)」を活用したりして、対話力を身に付けるよう努めた。	●夏休みを有効活用して研修を充実させる。 ●若手教員の悩みを聞くなどの時間の確保が課題である。スキルアップタイム活動を有効活用し、対話力や反応を高める。 □教員の「やりがい」や「成長」を実感できる研修に向け、工夫をする。研修主事、内部・外部講師の活用をする。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立した社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	78	B	○特別支援教育コーディネーターが、通級指導教室と学級を大いにつないだ。 ○通級指導教室児童の記録を家庭と担任と特別支援教育コーディネーターと管理職で共有することで合理的配慮を意識した指導につながった。 ○保護者との関係づくりを大切にすることで、合理的配慮もうまく進めた。	□個別の教育支援計画の加筆修正など、指導の内容や方法が確実に引き継ぐ。
【学校関係者評価】 ・「広報委員会をなくして、通信で学校の様子を伝えていく」と打ち出していたので、もっとたくさんの写真が見たいと思った。文章も極力少なくてもいいので、配信する頻度を増やしてほしい。 ・学校だよりを前の「わかたけ」のように、地域に配布してほしい。 ・協議会の場で、写真を多く取り入れて丁寧なご説明をいただけており、学校全体の様子がとても分かりやすく伝わってくる。また、経営方針に則った着実な運営がなされていると思う。学校だよりは、毎回とても素晴らしい内容で、区長として地域のすべての方に読んでいただけるように取組を考えていきたいと思う。 ・区長に地域の人との交流を進めていただきたい。 ・授業参観で教室を見ると、美しく整っており、落ち着いた学習環境の土台づくりができていると感じる。一方でトイレのスリッパや空き教室が整っていない場面もあり、日頃から指導を重ねていくことが大切だと考えた。言語環境は良くない話を聞くことが増えた。「集団で生活するために、「相手を(意図せず)傷つけない心配」というメッセージをたくさん伝えていきたい。 ・落ち着いた学習に向かっている様子を見て、日頃の先生方のおかげだと実感できた。 ・大根の授業を参観し、栄養や種類、調理など深く掘り下げた内容で感心した。たかが大根、されど大根と感心した。 ・PTA活動で、先生方にも、たくさん支えていただいた。お忙しい中、ご協力いただける姿を見て、もっと学校に貢献したいと思った。「便りがいいのは良い知らせ」とはいうが、子どもから「今日、〇〇があって…」と聞くと、ドキッと。できれば、子どもより先に先生から説明を受けたい。 ・授業参観に出席する保護者の奉仕活動の参加状況やPTA活動が不明で、地域と学校を繋ぐ取組はできていても、保護者と地域、保護者と学校の連携などが不十分に感じる。区長としては、地域の中で子供会の取組を支援して、連携を深めることができればと考えている。 ・もう少し、地域の連携を多くし、保護者との交流会を設けたい。					